

北方領土返還のために



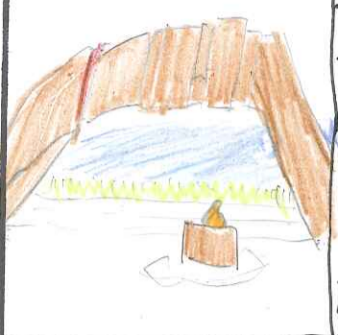
青森県弘前市立南中学校

納沙布岬からの北方領土視察

○北方館 副館長のお話
北海道での研修一日目。最初に訪れたのは根室市の納沙布岬だった。

岬には北方館という資料館や、当日は霧がかかっていたが見えなかったが、条件の良い日は北方領土が一望できる展望室などがあった。私達はその資料館の副館長の方からお話を聞いた。まあ一番最初の説明で目に入ったのは返還運動の象徴でもあるモニュメント。年中この火は燃え続けている。一年中つけ続けていると費用は二〇〇万かかるそう。しかしその費用は国の援助がないため全て根室市が負担している。それにも関わらずずっと火を灯し続けているのは、根室市民、いや北海道民全体の思いがあるからだろう。副館長はだんだん実際に北方領土に住んでいた人は減少しているという。一刻も早くその方たちが故郷に戻ることができれば自分も情報発信者となり自分の友達や家族に今の悲しく深刻な状態を呼びかけたいと思う。

四島のかげ橋 (モニュメント)



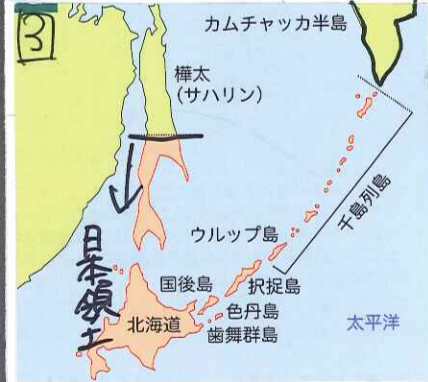
北方領土が占拠されるまで



1855年日露通好条約 (下田条約)
現在の青森県で締結。この条約で両国の国境は択捉島とウリップ島の間に定められた。択捉島以南は日本の領土、ウリップ島以北はロシア領となった。そして樺太は両国民の混住の地となった。



1875年樺太千島交換条約
日本はこの年千島列島をロシアから取り替わりに樺太全島を放棄した。千島列島には北方四島が含まれていないため、ずっと日本の領土。



1905年ポーツマス条約
日露戦争の結果、北緯50度以南の南樺太が日本の領土に。



1951年サンフランシスコ平和条約
第二次世界大戦の結果、日本は千島列島と南樺太の権利を放棄した。しかし放棄した島に北方四島は含まれていない。つまり、連綿による占拠に法的な根拠はない！！！！

北方領土のゴミ問題!?

○深刻な問題
北方領土は見自然が美しくとてもきれいな島というイメージが私の中にはあった。しかし実際にはあまりにも違う状態だった。ゴミ処理場が最近まで整備されていなかったため、海にゴミや油などが浮いてくる劣悪な環境上でロシア人は暮らしていた。きれいな環境を汚すことは簡単だが、完全に取り戻すまでには膨大な時間がかかってしまう。私達はロシア人が汚してしまっただけのゴミ問題にも目を向けなければならぬ。

北方四島交流事業の内容

一九九二年、ソ連から日本国民と四島住民との交流を行うことが提案され、翌一九九二年からじかなし交流が始まった。日露間の問題解決のための環境整備を目的とし、相互理解を深めるために、いろいろと活動が盛んに行われている。私はこの研修を通じて北方領土の深刻な問題を知ることができた。こういう交流があるとうとうと自分たちの問題解決に向けて、自分からできる事をとりたいと思う。

